

初代研究員 増田倫子さんに聞く 秋岡コレクションのこと



○秋岡コレクションを資料整理したときに感じたことは？

日本人は、モノづくりの技が高く、使いやすく、より良いカタチを求める気持ちが強い、美意識がとても高いことに驚かされました。モノを作るための道具ひとつとっても、これほどまでに繊細で美しいカタチをしていることに、日本人であるにも関わらず、私自身初めて気がつきました。秋岡先生はそのことにいち早く気づき、失われていく手道具の収集をはじめました。ですから、私も精一杯やらなくてはと思いました。

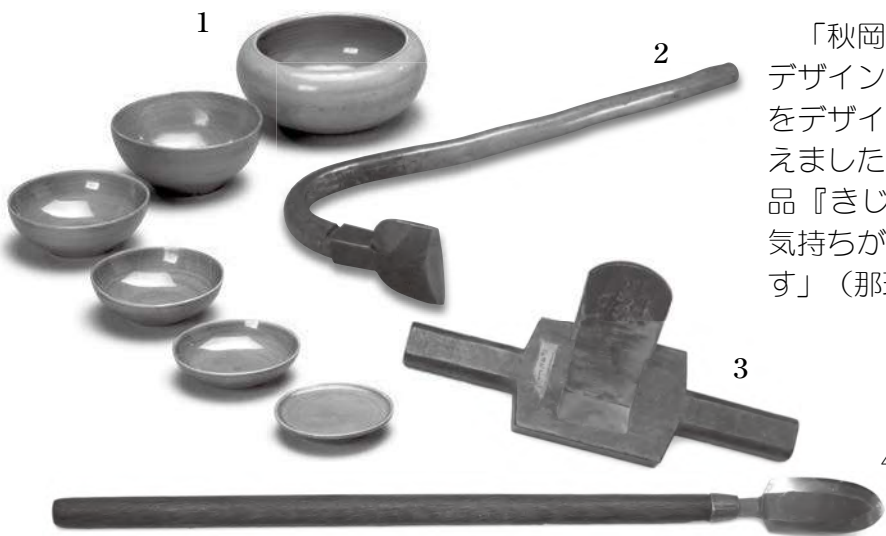
○秋岡先生の印象について

私は東京で秋岡先生の仕事関係の書類整理を

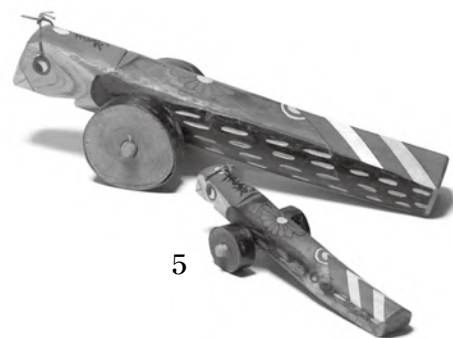
担っていました。そのなかで先生の考え方を理解していったように思います。秋岡先生は偉ぶらず、誰にでも等しく、難しい言葉を使わずにわかりやすく話をされるかたでした。自宅の木工室で、ウイスキーを片手に竹とんぼを作る姿を覚えています。完成した竹とんぼは、ウイスキーの空瓶に何本も差していましたよ。

○秋岡コレクションのこれからの活用は？

私たちの暮らしに身近な木。手で触れると体温になじむやさしい質感は、日本人に好まれています。手道具は展示だけではなく、触れてみて使い方を知ることが必要です。日本人の心にある美意識をこれからも忘れずに伝えていきたいですね。



「秋岡先生は、工業製品をはじめとした多様なデザインを手がけ、童画や「学研の科学」の教材をデザインするなど子どものためのデザインも考えました。資料の中には玩具もあり、熊本の工芸品『きじ馬』は、子どもの健やかな成長を願う気持ちが込められた木地玩具で、私のオススメです」（那珂研究員）



1. 応量器（食器類）、2. 鉦一宮大工用、3. 底廻し鉋、4. 秋岡型槍鉋、5. キジ馬（郷土玩具）